

序章

計画の位置づけ

1 計画策定の背景・目的

本市では、市民・事業所・関係団体・行政との連携・協働により、産業振興、地域経済活性化を図るために、地域産業の新たな役割と施策の方向性を示した「宜野湾市産業振興計画」を2014(平成26)年3月に策定しました。2019(平成31)年には、その改訂版である「第二次宜野湾市産業振興計画」を策定し、産業振興に向けた様々な施策を展開しています。

「第二次宜野湾市産業振興計画」の計画期間である2019年度から2023年度は、これまでわが国が体験したことがない「新型コロナウイルス感染症対策」に明け暮れた期間だったと言えます。新型コロナウイルスは2020(令和2)年1月15日に国内で初めて感染が確認され、感染者数は累計で3000万人を超えています。爆発的な感染者数の拡大に対応するため、小中学校の休校や緊急事態宣言に基づく外出自粛や移動制限、事業や店舗の休業・時短の要請、渡航制限など、社会経済活動を停止するような状況に陥りました。人の集まるイベントも自粛が求められ、2020(令和2)年に開催される予定の東京オリンピック・パラリンピックは2021(令和3)年に延期された上無観客での開催となりました。本市の産業関連施策についても、計画されていた施策の多くは実行が難しくなり、また、市内事業者の支援が中心となりました。

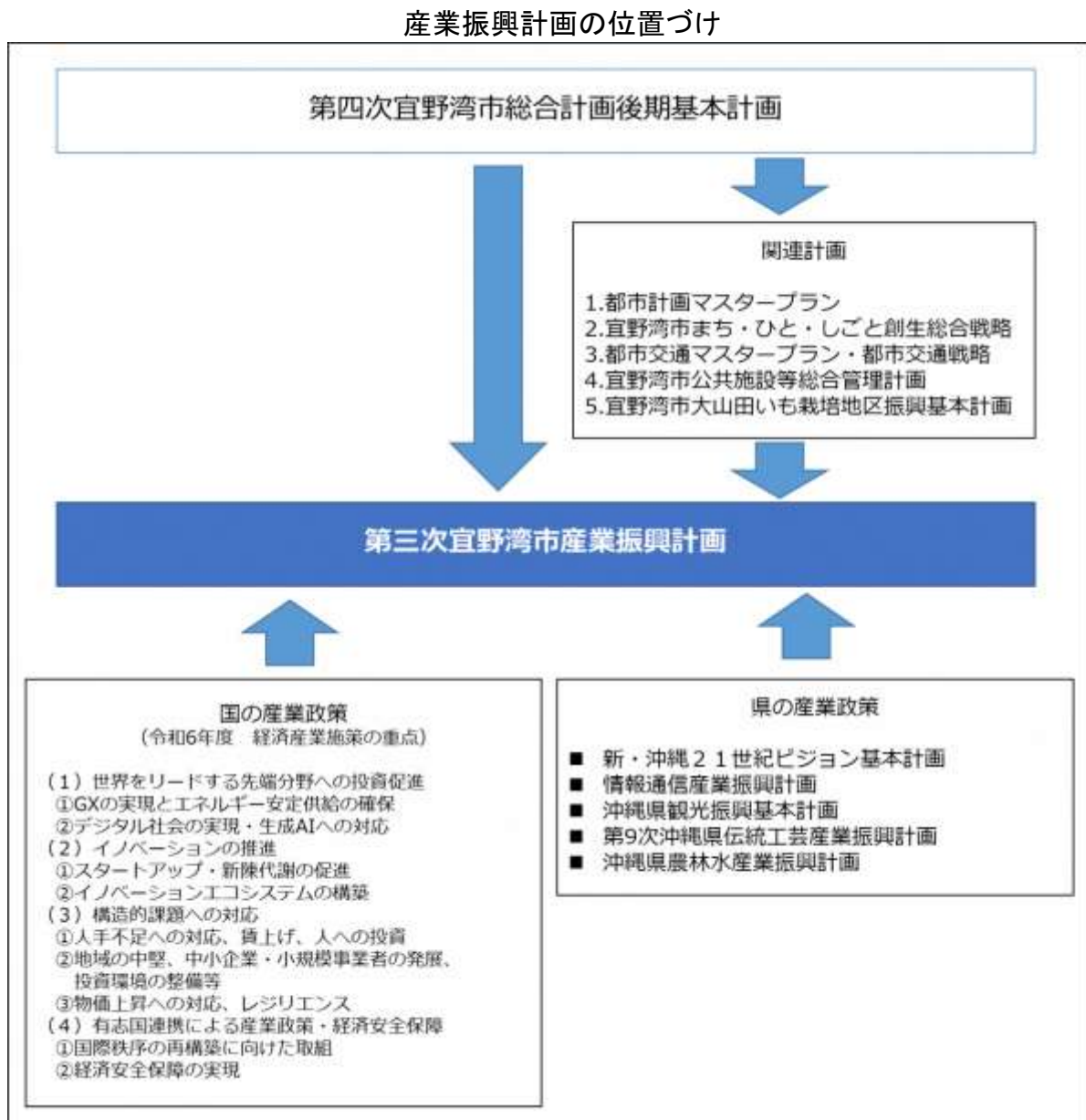
しかし、2023(令和5)年5月には新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類感染症に移行し、すべての制限が解除されました。沖縄への入域観光客数も7月には国内外合計で77万8800人となり、同月最高値だった96万3600人(2019年7月)の8割まで回復しています。今後も沖縄県や本市への来訪者数は拡大することが期待されます。

このたび策定した第三次宜野湾市産業振興計画では、2021(令和3)年3月に策定された「第四次宜野湾市総合計画後期基本計画」において産業面での基本目標として掲げている「地域資源を活かした、活力あるまち」の実現に向けて、本市産業振興のあるべき姿を明確化するとともに、「第二次宜野湾市産業振興計画」の実施状況や社会経済動向を踏まえ、産業振興、地域経済活性化を図っていくための具体的な取り組み等を示しています。

2 計画の位置づけ

本計画は、第四次宜野湾市総合計画後期基本計画(2021～2024 年度)に位置づけられている「地域資源を活かした、活力あるまち」を実現するための個別計画となります。

策定にあたっては、国や県の産業振興に向けた取り組みに留意し、本市における関連計画との整合を図ります。



第四次宜野湾市総合計画後期基本計画の概要

【基本目標】

目標 1: 市民と行政が協働するまち	目標 4: 地域資源を活かした、活力あるまち
目標 2: 健康で、安心して住み続けられるまち	目標 5: 安全・快適で、持続的発展が可能なまち
目標 3: 文化を育み、心豊かな人を育てるまち	目標 6: 平和をつなぎ、未来へ発展するまち

【産業に関する基本政策】

目標 4: 地域資源を活かした、活力あるまち

基本施策	施策名
(1) 観光・リゾート産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光資源の創出と拡充 ● 観光情報の発信および観光推進組織の連携
(2) コンベンション支援機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● コンベンション・リゾート環境の整備・充実 ● 受入態勢の強化およびプロモーション活動の充実
(3) 地域商店街の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の特性を活かした商店街づくりの促進 ● 商業環境の充実
(4) 商工業・情報通信産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ● 経営革新・新事業の創出支援 ● 情報通信関連事業者の立地促進 ● 産学官金連携、異業種連携による新事業の創出
(5) 企業立地と多様な働き方による就労の促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業立地の促進 ● 人材育成の推進 ● 各種就業支援および就業環境整備の推進
(6) 都市農業・漁業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市農業の振興 ● 漁業の振興

3 計画の期間

本計画の期間は、2024年度から2028年度までの5年間とします。

年度	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	
沖縄県		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画										
宜野湾市	第四次宜野湾市総合計画 後期基本計画			宜野湾市総合計画								
			第三次宜野湾市産業振興計画									

4 第二次宜野湾市産業振興計画の振り返り

(1) 第二次宜野湾市産業振興計画の総括

今回策定した第三次宜野湾市産業振興計画の前身である第二次宜野湾市産業振興計画(以下「前計画」という。)は、第四次宜野湾市総合計画(2017((平成 29))~2024((令和 6))年度)に基づき、「ヒト・モノ・情報が集まる 賑わいあふれ 活気のある 自立した経済の都市」の基本理念のもと、商工業、労働、観光、農水産業の各分野において、産業の育成と活性化を推進し支援してきました。

前計画期間では、未曾有の感染症であるコロナへの対応が大きな課題となりました。ほぼすべての産業が大きな影響を受けましたが、特に観光やイベントは大きな打撃を受けています。しかし、行政のみではなく、市民や事業者、各種関係団体と協働によって、従来のような中小企業等の支援、創業支援体制の構築、地産地消の促進、新しい働き方やワークライフバランスの普及促進、十分なコロナ対策をした上での可能な範囲でのイベント開催等、本市の産業振興の取り組みを実施していくことができました。

2023年5月からの新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類感染症に移行したこともあり、産業・経済面でも失われた数年を取り戻すための新たな取り組みが求められています。

今後、本市の更なる発展をめざし産業基盤の強化、観光コンテンツの充実、多種多様な雇用環境の創出・人材育成に取り組んでいくために、社会経済分野の変化を踏まえた事業体系を構築することが重要になります。

(2) 前計画の基本方針ごとの振り返り

前計画は、以下の4つの基本方針に基づき展開してきました。

- | |
|---|
| <p>方針1 企業が育つ活力あるまちづくり
方針2 賑わいを生み出すまちづくり
方針3 産業基盤の充実
方針4 地域資源と人材の育成・活用</p> |
|---|

前計画において、各基本方針を基に推進してきた主な取り組みは、以下の通りです。

【方針1 企業が育つ活力あるまちづくり】

施策1-1. 中小企業等の経営に対する支援

取り組み	指標	実績/目標	備考
① 中小企業等の活性化と経営基盤強化への支援【重点取組】	宜野湾市特産品等販路拡大支援事業(補助金交付件数)	17/50 件	<ul style="list-style-type: none"> ・補助対象を拡大したが、コロナ禍のため物産展等のイベントが縮小。イベントが再開した際の補助の在り方の検討が必要。 ・市内事業者への周知の改善が必要、関連団体とのどのような連携をすべきか検討等の課題。 ・商工会や創業支援関係団体、宜野湾ベイサイド情報センター入居企業等との協議や検証の強化が必要。
② 生産性向上支援【重点取組】	生産性向上特別措置法に基づく支援(認定件数)	25/30 件	
③ 各業種および教育機関を含む関係団体との連携強化	【定性】事業者の支援、大学・研究機関と連携した人材育成	—	

施策1-2. 商店街活性化

取り組み	指標	実績/目標	備考
① 魅力的な商店街・商店づくりの促進【重点取組】	地域商店街組織数	4/5 組織	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街 PR のイベント等補助を実施。コロナ禍であったが、一定の効果あり。定着率の向上等の対策が必要。 ・ベ이스ターズキャンプ等のコンテンツに対する商店街等の周辺地域での消費を促す連携の在り方を検討します。
	空き店舗対策事業補助金交付件数	308/300 件	
② 観光産業と連携した商店街の活性化	【定性】観光客の誘引検討、イベントや交流会の支援	—	

施策1-3. 創業支援

取り組み	指標	実績/目標	備考
① 相談窓口の設置	宜野湾市創業支援事業計画推進事業 支援者数(うち創業者数)	24/45 件	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会を中心に活用実績あり。さらなる展開を効果促進のために、商工会・宜野湾ベイサイド情報センターとの連携を強化し継続実施。 ・コロナ禍で未実施だったセミナー等の推進検討
② 創業環境等の支援	【定性】事業運営に資する相談やセミナー受講の周知	—	

施策1-4. 情報通信関連産業の創業・発展支援

取り組み	指標	実績/目標	備考
① 情報通信関連産業立地の促進【重点取組】	【定性】支援場所の確保	—	<ul style="list-style-type: none"> ・余剰市有地を含め一定程度の用地の確保が求められているため、継続検討 ・施設の老朽化を改善し、事業者が求める機能を具備するなど、市内で育った企業が、市内に定着できる仕組みが必要。
② 情報通信関連産業の創業・発展支援	宜野湾市創業支援事業 支援者数(うち創業者数)	0/27 件	
③ 高度な技能を有したIT人材の育成支援	【定性】高度な技術を有する人材育成の支援	—	

【方針2. 賑わいを生み出すまちづくり】

施策2-1. 既存施設の連携による受入体制の強化

取り組み	指標	実績/目標	備考
① 施設間連携	西海岸エリア 施設利用者数	1.1/2.5 百万人	・ツーリズムエキスポやコンベンションエリア連携会議の開催。コロナ禍のため来場者は目標未達であったが、できるかぎりの連携を実現。駐車場不足や公共交通機関の弱さが課題として浮上。
② 宜野湾マリン支援センターにおけるMICE事業の展開	【定性】宜野湾漁港や市内ホテル等との連携	—	

施策2-2. 観光客滞在時間の延伸に向けた取り組み

取り組み	指標	実績/目標	備考
① 多彩なイベント等の振興【重点取組】	イベント開催数(主催、後援含む)	11/30 回	・コロナ禍のためイベント開催できず(実績はR.2~4の平均)。 ・「宜野湾市シェアサイクル事業」によるサイクルポートの設置により、シェアサイクルの利便性が向上。市内回遊につなげる施策実施が強化点。 ・「ハートポスト設置/ハートプロジェクト実施」の継続的な開催、およびコンテンツの開発が強化点。
② 市内回遊の仕組みづくり	【定性】市内にある魅力発見の取り組み支援	—	
③ 新たな観光コンテンツの発掘	【定性】西海岸、自然、文化財等の発掘支援	—	

施策2-3. 国内外から選ばれる都市になるための取り組み

取り組み	指標	実績/目標	備考
① スポーツコンベンションの誘致	キャンプ来場者数(単年度)	29,160 /30,000 人	・コロナ禍のため、無観客や入場制限があり、イベントも開催不可、現地視察不可。 ・アフターコロナの需要をつかむ対策が必要。 ・各事業のメリットや効果を数値化してアピールすることも今後の課題。 ・イベント災害避難計画マニュアルの作成完了。全体的な危機管理計画の策定を進捗中。
	プロスポーツ大会の開催日数(単年度)	2/20 日	
② MICE 事業の推進	【定性】県との協力・連携(コロナ禍のため不可)	—	
③ 観光地環境美化整備および歓迎ムードの醸成	【定性】関連団体との連携、環境美化(コロナ禍のため不可)	—	
④ 観光危機管理対策	【定性】台風や地震などの自然災害時の対策支援	—	

【方針3. 産業基盤の充実】

施策3-1. 産業振興に向けた交通問題の改善

取り組み	指標	実績/目標	備考
① 駐車場不足の改善【重点取組】	【定性】駐車場整備の需要、効果、影響等の調査	—	・琉球大学が整備する駐車場の市民利用等に関して覚書締結。
② 交通環境の整備【中長期施策】	【定性】交通渋滞の改善、交通環境の整備等の支援	—	・交通環境のハード面は都市計画として取り組む方針。 ・シェアサイクルの整備とサイクルポートの拡大を実施。認知度と利便性の向上が今後の課題。
③ 公共交通の利便性向上【中長期施策】	【定性】公共交通への利用転換の促進支援	—	・公共交通機関の利用促進は、コロナ禍のため対応困難。今度の課題。

施策3-2. 産業エリアの形成

取り組み	指標	実績/目標	備考
① 産業用地の確保【中長期施策】	【定性】再開発に伴う産業用地の確保支援	—	・余剰市有地の活用等検討。確保できた用地が必ずしも事業者ニーズとマッチしない場合があり、今度の対策が必要。
③ 企業誘致の促進	固定資産税優遇制度を活用した企業数	16/20 社	・市報や Web 等により企業誘致を促進。空き物件の活用について、不動産事業者とのさらなる連携が必要。
③ 産業振興中核施設の整備	【定性】中核施設整備に向けた意見交換等の支援	—	・民間企業や専門家との協議を継続実施。

【方針4. 地域資源と人材の育成・活用】

施策4-1. 学生等の就業意識向上策

取り組み	指標	実績/目標	備考
① 教育機関、産業界、地域と連携した就業意識の向上促進【重点取組】	児童生徒の就業意識の肯定的変化	80%以上	・地域キャリア教育支援事業を実施。一括交付金活用事業であるため、同制度終了後の継続について、教育委員会との連携等の対策の検討が必要。

施策4-2. 人材育成・確保の支援

取り組み	指標	実績/目標	備考
① 地域人材と企業とのマッチング促進	【定性】総合的な支援を実施するための関連部署との連携強化	—	・「宜野湾ふるさとハローワーク推進事業」を実施。コロナ禍のため求人数が減少（終息に伴い増改傾向）。
② 多様な働き方が可能な環境整備や人材の育成【重点取組】	多様な働き方就労支援事業新規就労者数	10/20 人	・セミナーやキャリアカウンセリング等を実施。

施策4-3. ワークライフバランスの促進

取り組み	指標	実績/目標	備考
① ワークライフバランスの普及促進	【定性】普及のための啓発支援	—	・市報や市ホームページ、窓口で周知を実施。より効果的な方法について継続検討。

施策4-4. 農水産業の認知度向上と経営安定化の取り組み

取り組み	指標	実績/目標	備考
① 宜野湾ブランドの創出	【定性】市内外における普及や認知度向上のための支援	—	・生産者の高齢化および担い手不足により、年々生産量が減少しており、イベント時の田芋の確保が課題。
② 地産地消の促進	【定性】特産物の学校給食への利用等の支援	—	・国や県の補助金や給付金の制度は、市街化区域が対象外となっているものが多く、活用が難しい。
③ 農業への経営安定化支援	【定性】補助制度を活用した支援	—	・水産業支援として補助金を交付するも、燃料費の高騰、物価高騰による資材価格の上昇が課題。シラヒゲウニ養殖の取り組み推進。
④ 水産業への生産体制支援	【定性】安定した漁獲量確保に向けた支援	—	・新規就農者募集 PR や、50歳未満の新規就農者へ補助金を交付。市内全域が市街化区域のため農地が少ない。近隣市町村と連携した新規就農者を増やす取り組みが必要。
⑤ 農業を担う人材の育成	【定性】国・県の補助・助成事業の周知や活用支援	—	

施策4-5. 遊休農地の活用、圃場の確保

取り組み	指標	実績/目標	備考
① 遊休農地の把握	【定性】所有者等の現状把握	—	・農地利用状況調査や、地権者へ利用意向調査を実施。市内全体が市街化区域に指定されているため、遊休農地を把握しても農地利用が難しい。